



プレカット連携の注意点

ARCHITREND
ZERO

スムーズな連携を行うためにも、連携前に確認をお願いします。

プレカット工場に渡すファイルの作成

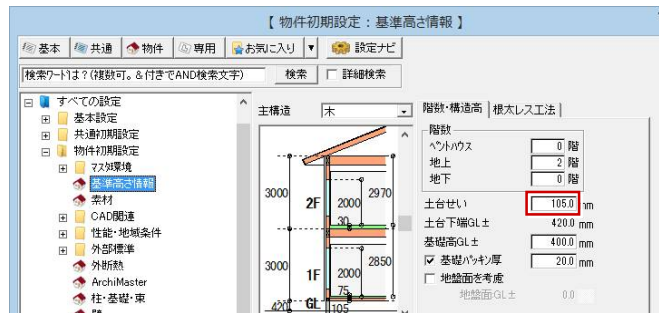
基本情報の確認

a 基準高さ情報を確認する

【物件初期設定（基準高さ情報）】ダイアログの「土台せい」を確認します。

重要！土台せい

土台のせいは、CEDXM ファイルを作成する際の条件設定で設定します。
プレカット CAD 連携に必要な「構造基準レベル」は、土台の上端を基準に算出されます。

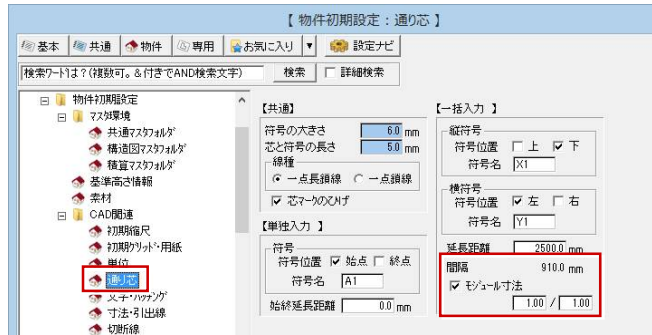


平面図（平面詳細図）の入力

a 通り芯情報を確認する

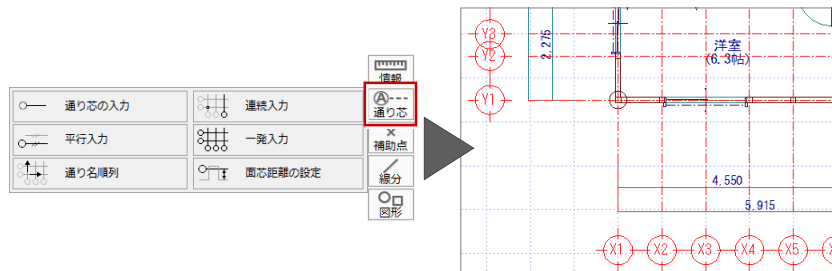
【物件初期設定（CAD 関連-通り芯）】ダイアログの【間隔】を確認します。

モジュール寸法の間隔は、【物件初期設定（CAD 関連-初期グリッド・用紙）】ダイアログにある【グリッド設定】の【間隔 X】で設定されています。



b 平面図に通り芯を配置する

プレカット CAD 側の基準位置の設定やグリッド情報に利用されるため、平面図に通り芯は必須です。



■ MP-CAD の場合

CEDXM ファイルを読み込む際に、読み込み配置・自動配置を選択でき、読み込み後も手入力できます。

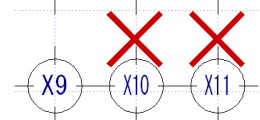
■ TOA-CAD の場合

通り芯データがない場合、ZERO ⇒ TOA-CAD ⇒ ZERO とした際に座標がずれるケースが発生します。

※ TOA-CAD でプレカットデータ (CEDXM) を読み込む際に確認、編集が可能です。

c 通り芯記号は2文字まで (MP-CAD に連携する場合のみ)

MP-CAD 側の制限で、通り芯符号は2文字までしか連携しません (3文字以降は無視されます)。
「X12、Y12」等はNGなので、「い、ろ、は」や「1、2、3」を利用してください。



d 小屋裏収納は部屋タイプ「小屋裏収納」で入力する

小屋裏収納を連携したい場合は、部屋タイプ「小屋裏収納」の部屋を入力してください。

- ※ 部屋タイプ「小屋裏収納」は部屋マスタで登録します。
- ※ 2階上部に小屋裏収納を配置する場合は [R 階平面図] に入力します。

e 部屋重複をチェックする

重なって配置された部屋がある場合、その部屋はうまく連携しません。
平面図の [ツール] メニューの [各種チェック] の [部屋重複チェック] で重複がないかを確認します。
重複があった場合は、そのまま領域を優先する部屋を選択し、部屋領域を修正します。

f 柱寸法は実寸法で入力する

平面図に入力した柱の寸法は、そのまま連携ファイルに書き込まれます。
実際に加工を依頼する柱寸法と平面図に入力した柱寸法が異なる場合、連携先のプレカット工場の担当者と打ち合わせしてください。
※ 平面図の柱の描画表現を強調するため、運用上実寸法より大きな柱で入力している場合などは注意が必要です (このような入力方法は推奨していません)。

g 柱の種類、寸法などを設定して反映する

[コマンドコレクション] を選び、柱をクリックし、「柱種別変更」を使って、柱の種類、寸法等を設定します。
偏心の情報も連携されるので、偏心する場合はその方向を指定します。

h 【平面図 ⇄ 平面詳細図】の整合チェックを行う

連携ファイルは平面図の入力情報から生成されます。平面詳細図で編集している場合は、平面図と平面詳細図の整合チェックを行い、平面図へデータを反映します。




各図面の整合性の確認を行います。確認を行いたい項目にチェックを入れ、実行を押してください。

i 【平面図 ⇄ 木造壁量計算】の整合チェックを行う

連携ファイルは平面図の入力情報から生成されます。木造壁量計算で配置した耐力壁を連携したい場合は、平面図の【読み込み】メニューから【他図面情報読み込み】の【耐力壁（木造壁量計算）読み込み】で取り込んでおきます。

- ※ 木造壁量計算に配置された耐力壁の位置は、そのままでは連携データに反映されません。
- ※ 木造壁量計算の接合部金物情報は連携します。

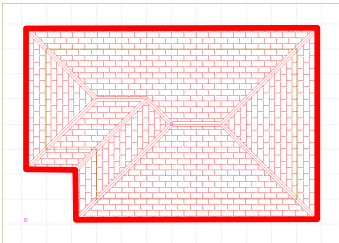
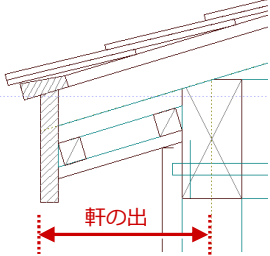



屋根伏図／天井伏図／立面図の入力

a 屋根領域がどの部分（垂木先端、鼻隠し、葺材）を指しているのかを確認する

屋根領域がどの部分（垂木先端、鼻隠し、葺材）を指しているのか、連携先のプレカット工場の担当者と確認をとっておきます。

- ※ ZERO では、軒先の位置を垂木の先端とするか、葺材の先端とするかを、【物件初期設定（屋根）】ダイアログの【軒先】で設定しています。（右図は軒先が垂木先端の場合）

b 図面データも送る

CEDXM ファイルで部材などの連携は行うことができますが、確認のためにも図面も添付しましょう。平面図、屋根伏図、立面図などが必要です。DWG、DXF、JWW などの電子ファイルにするか、FAX にするか連携先と打ち合わせしてください。

その他の注意事項

a	部屋床高を正しく設定する
<p>各部屋の床高を平面図に記載しておきましょう。</p> <p>プレカット図を作成する際、部屋ごとの床高情報が必要になります。床高は適切に設定してください。</p> <p>平面図に床高を記載しておく、プレカット担当者との打合せ時間の軽減にもつながります。</p>	
b	入力は正確にグリッドモードで
<p>部屋を入力する際は必ずグリッドモードで入力します。間崩れがある場合は、補助線を引いて入力しましょう。補助線は CEDXM データとして連携するので、プレカット CAD での入力時に役立ちます。</p> <p>たまに部屋をフリーモードで入力しているケースが見受けられます。フリーで入力すると、柱・壁・開口情報が不正確な情報として出力されてしまいます。ご注意ください。</p>	
c	高さ情報について
<p>意匠 CAD とプレカット CAD では、基準高さ情報の設定基準が違います。</p> <p>【ZERO】</p> <p>ZERO では、基準高さ情報で軒高を設定します。</p> <p>1 階軒高：基礎上端から 2 階横架材上端</p> <p>2 階軒高：2 階横架材上端から小屋梁上端</p> <p>【プレカット CAD】</p> <p>1 階階高：土台上端から 2 階横架材上端</p> <p>2 階階高：2 階横架材上端から小屋梁上端</p> <p>軒高と階高という言葉の違いだけでなく計測場所が違います。</p> <p>特に気を付けてほしいのは、土台せいです。ZERO から CEDXM で出力する際の土台せいは、CEDXM ファイル書き出しの際に表示されます「条件設定」の土台せいが連携します。必ず確認しましょう。</p>	

